

【0601】FP 療法

【投与スケジュール】1 コース=28 日

一般名	商品名	略号	投与量	1W	2W	3W	4W
シスプラチン	シスプラチン	CDDP	70mg/m ²	↓ Day1			
フルオロウラシル	フルオロウラシル	5-FU	800mg/m ²	↓ Day1~5			

【投与日のタイムテーブル】

滴下順	薬品名	用量	投与時間
Day0			
主管①	<入院注射>ソルデム 1 輸液 500mL	3 本	持続
Day1			
主管①	<入院注射>生理食塩液 500mL	3 本	持続
内服	アプレピタントカプセル 125mg	1 カプセル	シスプラチン開始 60~90 分前
側管①	20%マンニトール注射液「YD」300mL	1 本	30 分
側管②	アロキシ静注 0.75mg	1 本	30 分
	デカドロン注射液 3.3mg	3 管	
	生理食塩液 100mL	1 本	
側管③	シスプラチン(規格無し)	70mg/m ²	2 時間
	生理食塩液	300mL	
側管④	フロセミド注 20mg	0.5 本	5 分
	生理食塩液 50mL	1 本	
側管⑤	フルオロウラシル	800mg/m ²	24 時間
	生理食塩液 500mL	1 本	
Day2-3			
主管①	<入院注射> KN3 号輸液 500mL	3 本	持続
側管①	デカドロン注射液 3.3mg	2 管	15 分
	生理食塩液 50mL	1 本	
側管②	フルオロウラシル	800mg/m ²	24 時間
	生理食塩液 500mL	1 本	
内服	アプレピタントカプセル 80mg	1 カプセル	午前中
Day4-5			
側管①	デカドロン注射液 3.3mg	2 管	15 分
	生理食塩液 50mL	1 本	
側管②	フルオロウラシル	800mg/m ²	24 時間
	生理食塩液 500mL	1 本	

※必要に応じて、硫酸マグネシウム補正液+補液が投与される場合があります。

※アプレピタントを使用する場合は、Day1 はシスプラチン投与 1 時間～1 時間半前(マンニトール投与前くらい)、
Day2-3 は午前中に服用する
※アプレピタントを使用しない場合は、Day1 のデカドロンを 4～5 管に増量

催吐性	高度
組織傷害性	シスプラチン: 炎症性 フルオロウラシル: 炎症性
代表的副作用	シスプラチン >10%・・・悪心・嘔吐、食欲不振、倦怠感、腎機能障害、骨髄抑制 1～10%・・・聴力障害、末梢神経障害、電解質異常(低 Mg 血症) フルオロウラシル >10%・・・食欲不振、下痢、口内炎、骨髄抑制 頻度不明・・・心筋虚血、白質脳症

【注意事項】

(シスプラチン)

- 光に対して不安定なため、直射日光を避け、点滴時間が 6 時間を超える場合は遮光して投与すること
- 腎毒性軽減のため、十分な量の補液が必要である。尿量や体重の変動に注意し、必要に応じ利尿剤を追加すること
- 先発品は「ランダ注射液」です。2018 年 12 月に後発品に切替え